



にじのはし幼稚園 園だより



令和6年5月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 飯田 美弥

新年度が始まり1か月がたとうとしています。満開の桜の下で迎えた新学期でしたが、その桜が風に舞い、園庭に降ってくると子どもたちは大喜び！落ちていた花びらを集めてもう一度投げ上げたり、バケツにたくさん集めてごちそうの材料にしたりしていました。この季節にしか味わえない自然からの贈り物を、思い思いに自分の遊びに取り入れている子どもたちの柔軟さを大切にしたいと感じた出来事でした。今、園庭に出ると、悠々と空を泳ぐこいのぼり、その後ろを颯爽と走るゆりかもめ。夏を先取りするような陽気の中で、子どもたちは元気に遊んでいます。



3歳児ことり組は少しずつ園に慣れ、自分を出せるようになってきました。保育室では、自分が好きな場や遊具を選び、お家ごっこや粘土、塗り絵などをして楽しんでいます。園庭では砂の感触を楽しんだり、型抜きをしたり、一人ひとりが自分のしたいことをして過ごしています。降園前の先生の絵本や手遊びも大好きです。椅子に座り、興味をもって見たり、先生と同じように手を動かしたりして楽しんでいます。

4歳児かもめ組は、中型積木で船やお家などの場を作り、そこを拠点に釣りに出かけたり、遊びに必要なものを作ったりしています。砂場では先生や友達と一緒に裸足で水の感触を楽しみながら遊ぶ姿もありました。一斉活動で、自分のクレパスを初めて使った時には、一本一本名前の書かれた自分のクレパスを嬉しそうに見せてくれました。新しいお友達も加わり、優しくかかわる姿が見られます。

5歳児いるか組は、必要感をもって係の仕事をしています。年長組だからやる、というのではなく、「やりたい人がいっぱいいるけどどうしたらいい？」とか、「どんなふうに伝えたら、思いが伝わるかな」など、自分たちで考えて決めていけるようにしています。時間はかかりますが、その分、園での生活の質が高まっています。遊びの中でも、自分たちがやりたいことをどうしたら形にできるのか、考えている姿が見られます。



にじのはし幼稚園は『社会に開かれた教育課程』を推進します。



- ・教員同士のカンファレンスを通して幼児の姿から幼児の内面を深く捉え、発達に必要な環境を整えます。
- ・幼児の実態や発達、時期にふさわしい感動体験ができるようにします。

(幼稚園経営計画 3 幼稚園経営の方針 より)

感動体験のものは、気付くことにあります。自然なら、芽が出た、蕾ができた、花が咲いたというようなことが、幼稚園の生活の中にはちりばめられています。園内の様々な環境に関わりながら、にじのはし幼稚園の子どもたちがそれぞれのペースで、どんなことに気付いていくのか、そして私たちはどんなことに気付かされるのか、今月も楽しみです。

そして、25日には、にじのはし幼稚園・お台場学園合同運動会があります。今年度初めての大きな行事が、地域の方に見守られる中、子どもたちの感動体験の一つになればと思います。温かい応援をどうぞよろしくお願いいたします。